



第118話 ～営農振興課より～ まんが:じっく

AIや情報通信で便利な スマート農業を始めませんか？



主人公の一ノ瀬なおさんは、現在地元の高校に通う16歳。そろそろ就職か進学か決める時期。JAに勤めている姉の話聞きながら、将来の自分を見つめます。JAでは、労働力や農作業の省力化などに向け、スマート農業の導入などを進めています。今回は、スマート農業の一部を紹介します。

特に便利なのはファーム製の 水位センサー・自動給水バルブ！

①ファーム製水位センサー・自動給水バルブ

※イラストは全てイメージです

手元のスマホで
管理・操作

水位センサー

自動給水バルブ

通信機

導入でどう変わる？

- ・スマホで水位確認、給水、止水可能。タイマー設定も可能
- ・天候や圃場の状態に合わせて給水設定が変更可能
- ・月額料金、通信料無料で製品代のみで使える。1台から購入でき、スマホ操作も簡単

など

②xarvio®(ザルビオ)フィールドマネージャー

衛星データとAIを活用した
栽培管理支援システム

“ザルビオ®フィールドマネージャー”は
効率的な栽培計画が分かるぞ

人工衛星からの
圃場画像

AI
分析、予測
管理

土壌、品種等の
特性を記録

気象情報

他、各種情報

肥料のり
病気発生
のリスクあり

※イラストは全てイメージです

ザルビオ®があれば
後継者育成も
スムーズだぞ

お父さんは
特に説明が
下手だしね...

話して伝えるより
データを見た方が
分かりやすい

導入
しよう

編集後記

▽立春が過ぎ暦の上では春の季節ですね。今月の表紙の子どもたちが恵方巻を作り撮影を行いました。恵方巻を食べる風習が始まったのは江戸時代頃と古く、商売繁盛や無病息災を願ったとされています。▽JAいわて平泉のインスタグラムを開設しました。JA各生産部会の活動内容や管内の様子などSNSでの発信も充実させ、産地のPRを行っていきたく思いますので、フォローをお願いします。(及川)

▽今月号の特集では、集落営農組織について紹介しました。農業従事者の高齢化は深刻な問題ですが、取材した中では、地域の農業を継続していきたいという意思が感じられ、組織それぞれに考えがあり、創意工夫しながら取り組んでいることを実感しました。広報誌を通じて、皆さんのさまざまな取り組みが伝えられるよう努力していきたいと思っています。(阿部)

